

きゅうり これからの管理

外気温が暖かくなり、日照時間も長くなり、夜温も高い分、加温機の稼働時間はほとんどなくなります。きゅうりの蒸散量も多くなると、ハウス内が高温多湿条件下になりやすくなります。特に曇雨天時では葉が乾かない状況も出てきますので、ハウスの換気徹底に心掛けましょう。

『促成及び半促成胡瓜について』

促成栽培では長期間での栽培による草勢低下と、半促成栽培では冬場の冷え込みによる低地温での根量不足が十分想定される中で、気温上昇による成り込み後の草勢低下が極端に出ると思われれます。3月の時点でその傾向が見られました。草勢の維持管理を考え、管理を行ないましょう。

つる下ろし栽培の場合は、雌花の開花位置・収穫位置・節間の長さがどうであるかを観察し、その状況に応じた遮光・摘果・灌水量・換気を行なって下さい。

摘芯栽培の場合は、極端な摘葉・摘芯は避け半放任的に整枝管理を行なって下さい。上段部分の伸びすぎる枝については摘芯していきましょう。

『早熟胡瓜について』

早熟栽培につきましては、定植直後の方は鉢土が乾燥しすぎると、側枝の発生が悪くなってきます。十分な灌水を行なって下さい。定植後、雌花優先で生育している場合には、親枝の雌花摘果節位を上げましょう。既に収穫に入っている方については、側枝の動きを見ながらの管理になりますが、伸びすぎる側枝が多いようであれば摘芯作業に加え、摘葉も行ないましょう。

『温度湿度管理』

ハウスの換気徹底を行なっていくとハウス内は乾燥してきます。換気はサイドよりも先に妻面から行ない、開け幅も一度に開けるのではなく少しずつ慣らす様に開けて下さい。特にサイドは一度に開けてしまうと乾燥によるべト病の発生につながります。

夜間につきましても、外気温が高くなるにつれ外気温に合わせた開閉を行なっていきましょう。夜間のハウス内の温度が高いと樹勢は低下していきまます。変温管理を行なっている方につきましては、定置温度にして下さい。

『灌水・肥料管理』

日照時間が長くなるにつれハウスが開く時間が長くなる分、ハウス内は乾燥してきます。灌水量を増やしていきましょう。ただし、根が吸えていない状態での灌水は逆に根痛みの原因にもなりますので注意して下さい。

根を動かす為には、地上部の状態も良くなければいけません。葉面散布にて地上部の状態を良くしてから発根剤等の使用を行ないましょう。

追肥につきましては、灌水ごとの施用となりますが葉の色・ツヤ・収穫量を見ながら行なっていきましょう。特に葉の色が濃く、ツヤがない状態であるところにつきましても側枝の伸びも悪いと考えますので、肥料の量は控えめにするか、水だけにしましょう。

定期的な葉面散布・発根剤の使用を行ないましょう。場合によっては灌注も効果的です。

葉面散布剤：パワフルグリーン・メリット・ベストⅡ

『病害虫防除について』

ハウスの開口部分が多くなるにつれて害虫の外からハウス内への飛び込み、逆にハウス内から外への飛び出しが増えてくると同時に繁殖率も増加します。特にスリップス・アブラムシにつきましては、ウイルス媒介虫でありますので、ハウス内の害虫密度の観察を徹底し、防除体系の徹底を行ないましょう。

粘着板の状態を確認し、粘着部分がなくなっているようであれば、張替えを検討して下さい。

害虫の他に病気の発生も増えてきます。しっかりと予防防除に努めましょう。

農薬関係について分からない事がありましたら、担当課まで御相談下さい。

『徹底をお願いします』

ハウス周辺及びハウス内の除草対策はできていますか？ 雑草は害虫の温床になりますので、除草対策の徹底をお願い致します。

果樹園の管理(4月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。4月の果樹園の管理は以下の通りです。

1.かんきつ類全般

1)剪定、縮間伐

収穫の終了した園地では、早めに剪定を終わらせましょう。また、密植園では、樹幹上部しか光が当たらず、すそ枝がハゲ上がり、内部の葉が無く、枝が立ち収量が上がらない樹となります。さらに、果実肥大や品質が劣り、結果層が上部に集中するため、防除や収穫の作業能率も低下しますので、縮間伐が重要となります。

2)葉面散布の実施

発芽から緑化までの期間中は、葉面散布を実施して下さい。

…粟粒期から白化期はじょうのう数が決まる重要な時期です。そのため、多くの窒素分を必要としますので、白化期までに最低3回の葉面散布を実施しましょう。

目安→パワフルグリーン800倍 (1週間間隔)

又は 尿素500倍

2.日向夏の管理

1)収穫

出荷期間中です。規格、基準を守って出荷して下さい。

2)病虫害防除

収穫中の防除はできませんのでご注意ください。

病虫害名	使用薬剤	希釈倍数	収穫前 使用日数	使用回数	散布時期
そうか病	デランフロアブル	1000	30日前	3回以内	収穫終了園のみ

3.スイートスプリングの管理

1)病虫害防除

スイートスプリングは毎年、かいよう病の被害が出ています。

そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。

また、かいよう病の被害枝は剪定時に必ず除去して下さい。

病虫害名	使用薬剤	使用倍数	使用方法
かいよう病	Zボルドー	500倍	混用散布
	バイカルティ	1000倍	

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等）を守って使用して下さい。改正農薬取締法が施行され、使用者の自己責任となりますので、少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

連絡先…生産指導課 電話 77-2216

露地野菜生産者のみなさまへ

毎日の管理作業、お疲れ様です。朝晩の冷え込みも緩み、日中も気温が上がるようになってきました。晴天・曇雨天の偏りや一時的な冷え込みなど、管理に気を使う時期でもありますので、こまめな管理により収量・秀品率の向上を目指しましょう。

また、気温変化の大きい時期でもあります。体調管理にも留意しましょう。

【これからの管理】

・里芋・



早生種はマルチ栽培を行います。マルチに穴を開けずに植えた場合は、萌芽を始めたならマルチに穴を開けて芽出しをします。遅れると芽焼けを起こし、生育遅れや欠株となりますので遅れないよう注意しましょう。霜やけより芽やけの方が生育は遅れるので注意して下さい。

また、萌芽数が2本以上の場合は減収の原因となりますので、芽かぎを行い、大きい芽を1本残して下さい。

里芋は、干ばつに弱いので降雨が無い場合は灌水を行って下さい。降雨により圃場に水が溜まると根傷みし水晶芋（煮えない芋）の原因になりますので、排水溝の整備を必ず行うようにして下さい。

・里芋赤芽・



3月下旬から4月下旬が植え付け適期になりますが、なるべく4月下旬までには植え付けを終了するようにして下さい。生産の安定を図るためには、連作をしないことです。里芋は、連作をすることによる収量低下が著しく、2年連作すると25%減収し、3年連作では50%減収するといわれています。水田でも4年、畑では5年の輪作を原則とし、栽培を行って下さい。

『里芋は芽の部分の暗くないと芋のつきが悪く、肥大しない』と言われていています。この特性から、梅雨明けと約1ヵ月後の8月頃に追肥・土寄せを行い、芋の肥大促進を図って下さい。

毎年収量が思わしくない、という場合は、種芋自体が原因ということも考えられます。種芋の更新で収量が改善することもありますので、原因が分からない場合は相談して下さい。

・ジャガイモ・



湿害に非常に弱い為、排水溝の整備を行って下さい。暖かくなり、降水量が多くなると疫病やアブラムシ等の発生が予想されますので、圃場周辺の除草など対策を講じて下さい。

メークインは芽の数が多いと芋が小さくなります。1～2本に間引きを行い、芋の肥大促進を図って下さい。ただし、芽焼けにより脇芽が出ている場合は、脇芽を間引かないようにして下さい。

毎年遅霜の被害がありますので、パオパオ被覆など霜対策ができる圃場では対応策を行いましょう。

・春人参・



収穫前の降雨による腐敗等が発生していますので、排水溝の整備等を行うと同時に、予防策を行い、収穫・出荷に備えて下さい。除草・間引きの徹底で収量に差がでます。最終株間は10cmを目安に、目標収量10a当り3t以上を目指しましょう。

・ごぼう・



根や地上部の茎葉が大きく伸びる時期です。アブラムシの発生に注意して下さい。また、雑草が大きくなると生育に影響しますので早めの除草を心がけて下さい。

・甘藷・



出荷予定は6月下旬からとなっています。全員で出荷を始められるように栽培管理の徹底を行って下さい。アブラムシ・ダニ等の発生により生育が阻害されますので予防策を徹底して下さい。

・かぼちゃ・



地這い作りでは、条間に敷きわら等を行い、雑草防止を図るとともに果実等への害虫被害を防ぎましょう。支柱ネット栽培では、風による葉ズレ等の被害を受けやすいため、防風対策を行いましょ。また、ネットが重みでずり落ちないように、補強を行いましょ。

アブラムシやコナジラミ等の被害やウドンコ病の発生等があると生育が著しく劣りますので、シルバーテープ等の設置や予防策を充分行うようにして下さい。防除が必要な場合もありますので、早めに相談して下さい。ハウス栽培ではウドンコ病の発生が多く見られますので、ハウス内の管理を十分行って下さい。

施肥の遅れにより、果実の肥大に影響が出ます。有機質肥料は、施肥後7～10日後から肥効があり、14～20日後にピークがきます。施肥は遅れないように、また肥効を切らさないようにして下さい。

◎そ の 他

春作、秋作の中間の期間で、圃場への作付も一時休止となります。何も作付していない圃場には、緑肥作物を導入し、秋作の準備を行うようにして下さい。また、4～5年以上休ませていない圃場でも、緑肥作物を作付けする事によって地力の回復にもなりますので、なるべく作付を行うようにして下さい。

生育が思わしくない圃場では、センチウ検査と土壌分析をすることをお勧めします。連作障害等もありますが、品質と収量を確保するために、作付けの無い圃場では、検査をするようお願い致します。

土壌の持込は、開発センターまたは生産指導課まで。

